

備前市 事務事業 評価表

(平成17年度事業)

事業名	塵芥収集事業（日生地区）		コード	担当課	市民福祉課 環境衛生係
事業実施期間			01-01-14-06	担当者	坂本基道
新市総合計画 事務事業体系	大項目	安全で快適に暮らせるまちづくり	電話	72-1104	
	中項目	生活しやすいまちづくり			
	小項目	ごみ処理			
	施策	現有施設の延命化			

事業について	
目的	市内で排出される一般廃棄物を適正かつ効率的に収集する事により、生活環境の保全につなげる。
対象 (誰のために)	ごみの収集運搬を必要とする、日生地域の市民・市内事業者。
内容	ごみの種類ごとに収集日を定め、塵芥収集業務を外部委託し、担当地区のごみを収集する。

事業の結果			
実施項目	17年度 回数など (単位)	18年度 回数など (単位)	19年度 回数など (単位)
ごみ収集量	2,753 t	t	t
収集日数	207 日	日	日
			枚

事業費 (単位：千円)	事業費		財源		事業費		財源	
	直接事業費	61,601	国庫補助金等		直接事業費		国庫補助金等	
	人件費	3,015	受益者負担		人件費		受益者負担	
	合計	64,616	一般財源等	64,616	合計	0	一般財源等	0

結果指標①	結果指標名	ごみ収集量		
	結果指標量	2,753		
	単位	t		
	対前年比	0.00%		
	事業費	64,616,000 円	#DIV/0!	#DIV/0!
結果指標②	単位当たりのコスト①	23,471 円	#DIV/0!	#DIV/0!
	結果指標名			
	結果指標量			
	単位			
	対前年比	#DIV/0!		
	事業費	0 円	0 円	0 円
	単位当たりのコスト②	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

事業の成果			
成果指標名	t 当たりの収集コスト	式又は説明	事業費/ごみ収集量 (t)
	17年度	18年度	19年度
成果指標量	23,471		
対前年比	—	0.00%	#DIV/0!
到達目標値	収集委託料の削減	到達目標年度	毎年度

事務事業の評価		課題認識
目的・対象・内容の妥当性評価	目的の妥当性	関係法令等に基づき、燃えるごみ・不燃ごみ・ペット、トレイ・紙類・びん・粗大ごみの6種類に分別し、細分化を実施している。
	対象の妥当性	
	市民ニーズの妥当性	
市の関与の妥当性		
コストの効率化	資源ごみの回収等によりさらなるごみの減量化・資源化を図っているが、収集品目の追加や分別変更による収集回数を増やせば、収集の効率の低下が予想される。	
手段の最適化		
職場の効率化		
有効性の評価	目的達成度	ごみの減量化が進み、ごみ回収量が低下すれば収集コストの軽減が期待できる。
	成果向上の可能性	
市民参画度		

総合評価	
コメント	資源ごみ（古紙類、ペットボトル）の回収により、ごみの資源化を図っているが、さらに廃プラや乾電池などを追加することを検討している。実施するには、処理設備の整備をはじめ委託料の増額が懸念されるため、現時点での実施は難しい。
評価区分	<A~E> B

今後の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する <input type="checkbox"/> 完了・統合
翌年度 結果指標量①	結果指標量②
目標値	結果指標量② 収集委託料の削減

改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
妥当性	資源ごみ回収品目の増加	H20~	家庭ごみの排出抑制および資源物のリサイクル
効率性	資源ごみ回収品目の増加に伴うごみ集積所の集約化	H20~	ごみ収集の時間短縮と安全性の確認

事業の目的、対象、内容を考えながら目的の妥当性評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標とある結果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。